

伝文

日本口承文芸学会会報

第8号 1991年6月

発行 日本口承文芸学会

〒112 東京都文京区白山5-28-20

東洋大学・東洋学研究所 気付

電話 03-3945-7483

学会への提言

伊藤清司

改めていうまでもないことであるが、学会は会員の切磋琢磨によって当該学問の水準をたかめ、会員個人の研究の向上ならびに利便の増進をはかることにあり、その中核は研究大会・例会と学会誌にある。ここではとくに学会誌の編集にあたる方々にひとつのお願いをのべ、学会への提言にかえたい。

学会誌は学会をもっとも代表する顔であり、今後ともより質のたかい論文・書評などを採録されることを期待するが、それとともに会員各位の研究の現況や関係する刊行物の紹介を積極的にとりあげることが希望する。

新刊書については歴代、編集にたずさわってこられた方々、ことに最近の編集担当の諸氏はこの点に努めて心がけてこられたことはまことに感謝に堪えない。試みにここ3か年間の『口承文芸研究』第11号～第13号で紹介された新刊書の数は計50点に達しており、それ以前の過去10か年間の創刊号～第10号の合計47点をうまわる多さである。今後ともこの編集方針をぜひ堅持発展させていきたい。なお、この会報『伝文』には刊行

物リストが毎号多数掲載されており、これらのなかには学会誌の新刊紹介の欄でとりあげてほしい出版物も少なからず含まれている。

この学会も、会員数がとりわけ多く、かつ学会事務局の所在する東京が中心になりがちであり、また学術研究活動が大都市居住者に有利である実情に鑑みて、新刊紹介欄の充実拡大はあらゆる意味でこうした地域格差を埋めて、ギルドとしての本学会員に共通な利便をもたらすことができるものとする。その際、採録する刊行物には地方の出版物もつとめて多くとりあげるとともに、執筆者もなるべく当該地域の適当な会員の方に依頼することが望ましい。このことはこの学会が全国学会としての性格をいっそう強め、ひいては会員の拡大、学会の発展にもつながることが期待されるからである。編集担当者の手を患わずことではあるが、口承文芸研究者の集団である本学会では、他の学会とは異なり、この点は実現が比較的容易であり、意義もまた大きいと思われる。

(東京都 目黒区)

1990年度第1回研究例会

1990年度第1回(通算19回)の研究例会は、90年10月13日午後、中央大学駿河台記念館にて開催された。研究報告は、重信幸彦氏の「あたりまえな『世間』」と坂田貞二氏の「北インドにおける昔話伝承の様態」で、討論の司会は飯豊道男氏が担当された。その研究報告について、石井正己氏と藤井貞和氏に記していただいた。

重信幸彦氏は「あたりまえな『世間』」の発表において、柳田国男の「世間話の研究」などを読

み直す作業を通して、「世間」という概念はその都度壊され、作られてゆく「動き」そのものとして捉えることができると提言した。そして、その「動き」を捉えるには、前提となっている仕掛け(それは社会という外部だけでなく、研究者の内部にもある)そのものが問われなければならないと言う。重信氏が発表の中で批判した、「世間話」を「変わった話」とする概念は確かに狭いが、「変わった」ということそれ自体が「動き」を最もよく表す言葉であることは否定できないだろう。私

のように国文学研究に関わる者としては、古代の『源氏物語』から近代の井上靖の『しろばんば』などにまで見いだせる「変わった話はないか」という問いかけ（従来知られているより多くの文献に見つかる）にもう少しこだわってみたい気がする。何はともあれ、従来のように、対象としての「世間話」を研究するのではなく、重信氏のように、方法としての「世間話」で「都市」なり「現代」なりを研究しようとする立場は、世間話研究に新たな地平を拓きつつあるように感じられた。

(石井正己)

第2報告は坂田貞二氏の「北インドにおける昔話伝承の様態」で、フィールド体験、語り場（家の中庭で）、伝承の事例二態、伝承の条件について述べられた。中心はその事例二態。第1例は「王さまになった百姓の息子」の話が母親と娘（若妻）とで語数・細部に違いを見せるという伝承の崩壊の事例、第2例は「盗賊になった末の王子

（仮題）」という話についてで、伝承の強化・確認の事例である。後者は20歳の若妻（語り手A）が語り始め、まわりの婦人たちに助けられながら語るもの話につまり、語り手Bが交替して語りを継いでゆくケース。語り手Aが第2挿入歌まで何とか話を進めて挫折したあとめげずに立ち直って最後の第5挿入歌をBと一緒に歌うさまなどを、共感を込めて話される印象深い発表であった。

(藤井貞和)

なお、第2回研究例会は3月16日午後、同じく中央大学駿河台記念館で開催され、荻原真子「神話と英雄叙事詩の間——アイヌの口承文芸について」、竹原威滋「昔話『味噌買橋』をめぐる——そのヨーロッパにおける書承と口承」、桜井美紀「昔話『味噌買橋』をめぐる——その日本における翻案と受容」の報告がなされた。詳しくは次号掲載予定。

新 理 事 と 委 員 会 等 の 担 当 者

1991年2月の第7回理事選挙と同年4月5日の第20回理事会において決定した新理事は、次のとおりである。（五十音順、括弧内は地区名）

荒木 博之（九州）	飯倉 照平（関東）	伊藤 清司（東京）	岩瀬 博（近畿）
内田るり子（東京）	大島 建彦（東京）	荻原 真子（関東）	小松 和彦（近畿）
酒井 董美（中国）	佐久間惇一（中部）	高木 史人（東京）	竹原 威滋（近畿）
立石 憲利（中国）	田中 宣一（関東）	常光 徹（関東）	戸川 安章（東北）
徳田 和夫（東京）	野村 純一（東京）	萩中美枝（北海道）	福田 晃（近畿）
藤井 貞和（関東）	藤井 知昭（中部）	榎谷 明（関東）	松谷みよ子（東京）
宮田 登（東京）	吉田 敦彦（東京）	山下 欣一（九州）	

1991年4月5日の第20回理事会において、会長ならびに各委員会等の担当者が次のとおり決定した。（各係の最初にあるのが委員長）

会 長	大島 建彦		
庶 務	飯倉 照平	常光 徹	徳田 和夫
研究例会	内田るり子	野村 純一	藤井 貞和
機関誌編集	伊藤 清司	福田 晃	荻原 真子 高木 史人
会 計	田中 宣一	吉田 敦彦	
口承文芸大辞典特別編集委員会			

野村 純一 白田甚五郎 直江 広治 川田 順造

監 事 直江 広治 飯豊 道男

幹 事 笠松 郁子

事務局の移転

会長の交替に伴い、学会事務局は会長の所属機関である東洋大学東洋学研究所内に移った。

《こ え》

「絵姿女房」について

馬場英子

妻の絵姿を持たなければ、夫は仕事にも出かけられないという「絵姿女房」の夫婦の関係は、尋常ならざる結婚を窺わせます。この話には、「龍宮女房」と結びつくものなど、異界の女が妻になる話もありますが、日本の話では、二人の結婚のいきさつについては、なにも述べられないのが、むしろ特長になっているようです。

ところが、中国の西南に住むミャオやペー、チベット族などの「絵姿女房」には、貧しい若者が自分の才知で、身分違いの美しい娘を妻にするまでの前段がついているものがあります。才知に長けたこの若者はしかし、望みを遂げたとたん、妻に見とれているだけのふぬけと化し、妻はやむなく自分の絵姿を描いて渡すことになるので、これらの話では、この極端な変貌が、興味の一つともなっています。

また、中国の北隣、モンゴルに住むブリヤート族の話では、ラマ僧が、美しい娘を自分のものにしようと、木箱につめて流させます。が、娘は途中、牧童に救い出され、下流で待ち受けていたラマ僧は、かわりに箱に入れられた赤犬に食い殺されます。美しい娘と夫婦になった牧童は、娘に見とれて働かないので、娘は白樺に自分の絵姿を描いて渡します。齊藤君子さんのご教示によれば、このいわゆる「ささやき竹」型の導入部を持つ話は、アルタイ、トウヴァなどシベリアに住む民族の間にも広く語られているということです。

日本の「絵姿女房」に欠けているものに、もう一つ、夫が奪われた妻に会いに行くときの特別な衣装があります。日本の話では、殿様と衣服を交換するだけで、特にどんな服とも述べられていませんが、中国では、この型の話は「羽毛衣」の名でまとめられるように、ほとんどの話で、夫は様々な鳥の羽の衣装を着て行くようになっています。中国の西南の少数民族、また朝鮮、満州族の話にも、この羽毛衣は登場しますが、モンゴル、シベリアの諸民族の話では、山羊の皮、その他、獣の皮の衣装となっているものが多いようです。

外来の話といわれる「絵姿女房」ですが、日本で語られない部分を考えてみるのも面白そうです。

(新潟市)

《イタリア通信》

剣持 弘子

イタリア中西部トスカーナ州の中心地は、ルネッサンスの花の都フィレンツェであるが、州の北西部の山地はとくに伝承の豊かな土地として知られている。このあたり一帯を本拠地として、20数年来、精力的に調査活動を行っている48歳の気鋭の民俗学者、フィレンツェ大学のG. Venturelli教授を紹介しよう。

彼はこの地方の出身であり、方言には精通している。調査対象は散文、韻文のあらゆる口承文芸の他に、民俗事象全般にわたっている。要するにTradizione popolare (民間伝承)なのである。口承文芸にはLetteratura popolare (民間文芸)という言葉を使っていて、popolareggiante (民話《謡》調)の文芸と区別している。

V教授はすでに数千話の口承資料を集めていて、そのうちの数十話を「トスカーナの民話資料」として公表している。この資料集は韻文を含まないのでNarrativa popolare (民話)という言葉を使っている。彼の目下の関心は伝承のメカニズムにあり、長年にわたる密度の濃い調査により、豊かな伝承環境を保持する一家族を三世代にわたって観察する機会を得ている。

すでに、AT1000「怒らないという協定」、AT2015「頑固な山羊」の二話についてはそれぞれ論文を発表している。一人の優れた語り手(その母親も優れた語り手であった)と、今後語る機会に恵まれれば、優れた後継者となりうる娘と孫の三者の、同じ話の語りを比較、分析したものである。

V教授の大学での今年度の「民間伝承」の講座は、とくに子供のために伝承された文芸に関するもので、今までのところ韻文に重点がおかれている。自身で収録したテープを使っている講義であるが、学生は50人を越し(男は数人)、毎回席にあふれる者が出る有り様である。学生にはトスカーナ出身者が多いのであろう、幼時の体験について発言する者もあり、活気のある授業である。

(在 フィレンツェ)

—新刊リスト—

- 「ソリ」の研究——韓国農村における音と音楽の民族誌 桜井哲男 弘文堂 89.2
「門付け」の構造——韓日比較民俗学の視点から 朴銓烈 弘文堂 89.3
王権と物語 兵藤裕己 青弓社 89.9
吾妻鏡の方法——事実と神話にみる中世 五味文彦 吉川弘文館 90.1
国文学研究資料館講演集11（近世演劇——歌舞伎と人形浄瑠璃） 国文学研究資料館 90.3（寄贈）
自然と民俗——心意のなかの動植物 日本エディタースクール出版部 90.4
物語・創刊号（特集・折口信夫以後） 砂子屋書房 90.7
民具マンスリー（第23巻4～12号） 神奈川大学日本常民文化研究所 90.7～91.3（寄贈）
民話の手帳（44・45・46号） 日本民話の会 90.8～91.1（寄贈）
奄美沖縄民間文芸研究（第13号） 奄美沖縄民間文芸研究会 90.7（寄贈）
女の力——女性民俗学入門 鎌田久子 青娥書房 90.8
老人の知恵に学ぶ・4（抜刷） 久保孝夫 90.9（寄贈）
津軽の民話（第6号） 津軽民話の会 90.10（寄贈）
物語にみる婚姻と女性 江守五夫 日本エディタースクール出版部 90.10
中世の音・近世の音——鐘の音の結ぶ世界 笹本正治 名著出版 90.11
昔話・伝説必携（別冊国文学・No.41） 野村純一編 学燈社 91.2
昔話とは何か 小沢俊夫 福武書店 90.7
幸福の約束——イギリス児童文学の伝統 フシッド・イングリス 中村ちよ 他訳 90.7
神話の構造 横田健一 木耳社 90.10
インド神話 ヴェロニカ・イオンズ 酒井伝六訳 青土社 90.5
豊穡と不死の神話 吉田敦彦 青土社 90.12
ロシア民話の世界 藤沼 貴 編著 早稲田大学出版部 91.1
江戸の悪霊祓い 高田 衛 筑摩書房 91.1
シンデレラ アラン・ダンガス 池上嘉彦 他訳 紀国屋書店 91.2
子供の民俗学 飯島吉晴 新曜社 91.4
説話の国際比較 説話・伝承学会 桜楓社 91.4
韓国の神話伝説 黄 湏江 東方書店 91.5
中南米伝説の旅 松下直弘 共学書房 91.5
説話の森 小峯和朗 大修館書店 91.5
西王母と七夕伝承 小南一郎 平凡社 91.6
（お願い——会員の皆様の刊行物、論文等の情報をお寄せ下さい）

日本口承文芸学会への入会希望者は入会申込書をご請求ください。 入会金1,000円、年会費4,000円。
入会申込書請求・送金先：〒112 東京都文京区白山 5-28-20 東洋大学・東洋学研究所 気付
日本口承文芸学会事務局（TEL.03-3945-7483） 振替：東京 8 - 44834
The Society for Folk-Narrative Research of Japan, c/o The Institute for Asian Studies, Toyo
University, 5-28-20 Hakusan, Bunkyo, Tokyo, 〒112, Japan.

口承文芸に関心のある方を広くご紹介ください